

何事にも挑戦して

新校長先生インタビュー



校長室で丁寧に答えて下さりました

記念すべき第一回の特集コーナーは、中岡新校長先生へのインタビューです。

Q1. 新校長として、どんなことをしたいですか？

A1. 「わくわく感のある学校」にしたいと思っています。

以前からSSHやSGH、体験学習や体育祭、文化祭といった多くの好奇心を刺激するものが用意されてきましたが、今年は、ハーバードやMITの学生とのディスカッションを行ったり、世界的に活躍する方との接触をしてみたり、いろいろとセッティングできればと考えています。ぜひ、生徒の皆さんにも積極的にいろいろなことにトライしてほしいです。

Q2. 中学生、高校生の時に打ち込んでいたことや楽しかったことは何ですか？

A2. 中学校三年間は剣道部の主将をしていました。とてもハードで、夏休みは毎日特訓していたことを思い出します。

高校一年生の時は、友人たちと大体五、六人のグループを組んで曲を作っていました。そして高校二年生からは生活を勉強に切り替えました。

Q3. 休日はどのよう過ごしていますか？

A3. 朝早くにな

じみの喫茶店に行つて本を読んでいます。落ち着いて読める環境にあるので気に入っています。また、趣味は音楽を聴くことで、特に今はジャズのナンバーを聞いています。さらに、下手なのですが、ピアノを弾いてスタンダードナンバーを口ずさんで楽しんでます。

Q4. 生きがいは何ですか？

A4. 生徒たちには、様々な分野において世界をリードする「プラチナ人材」になってほしいのです。高い学力をベースとして、「熱い情熱」と冷静に判断できる「冷たい知性」を兼ね備えた「未来で活躍できる人材」を育成したいという気持ちは、若いころからの思いです。今、この思いを持って全力で打ち込めることに生きがいを感じています。

Q5. 最後に、生徒に何か一言をお願いします。

A5. 「あきらめる人生、挑戦する人生、人生二つに一つ」です。やるかやらないか、たつたの一步からでも世界は変わると思いますが。

ぜひ、生徒の皆さんは夢に向かって、何事にも挑戦していきましょう！

今回は出張の合間に私たちのインタビューのために学校にお帰りいただいたそうです。この場をお借りしてお礼申し上げます。中岡校長先生、本当にありがとうございました。

特集② 新学年、新学期、あなたに寄り添う文房具特集。

「四月」それは新しい始まりを告げる季節。春休みが明けて新しく西大和に入学し、がんばろうと意気込む人や、クラス替えに一喜一憂したり、学校生活が始まってしまうと嘆く人もいるでしょう。そんな私たちにとって欠かせない相棒がBUN☆BOU☆GU。文房具しだいでこれからの学校生活が変わるといっても過言ではないでしょう。いや過言かあ…。何はともあれ中でも、もっとも使うのはシャーペンではないでしょうか。という訳で文房具特集と銘打っておきながら、シャーペンについて紹介したいと思います。

今回特集するのはペンテルのグラフシャープ（写真右）とトンボ鉛筆のユラシア（写真左下）です。まずグラフシャープですが、これはただただ書きやすい。重さは軽いというわけではありませんが重くもなくちょうどいい書きやすい重さです。グリップはまるで手にくっついていてかのような握り心地を感じさせてくれます。デザインもかっこよく。文句なしのシャーペンといえるでしょう。

次はユラシアです。皆さんも聞いたことがあるかも知れませんが、俗にいう落ちないシャーペンです。なぜこのシャーペンが落ちないかというと、「おきあがりこぼし」の原理を応用して、胴軸（円筒）の片側面に重りを埋め込んで重心を偏らせることで転がりにくくしたようです。ショックが加わっても、ゆらゆらスイングして置かれた場所にとどまるので、転がって机から落ちることはなく、また机から軸が滑りにくくするために、グリップと軸の尾部にも軟質樹脂を加工しているらしいです。この「落ちない」という特徴から受験生への贈り物としてよく贈られているようです。今回紹介したシャーペン以外にもさまざまなシャーペンがあります。一人ひとりにあった物を使うことが一番大切なことかもしれませんね。



Canada 短期留学記

VOL.1 プロローグ

僕は今年1月から3月にかけて短期留学に行ってきました。その時に僕が実際に体験したこと、感じたことなどを一年間かけて伝えていきたいと思います。既に留学した先輩方はその時を思い出して懐かしんでいただければ、行けなかった人やまだ行ってない人はこの記事を読んで少しでも短期留学のことを知ってもらえたらと思います。ということで今月号では日本出発からカナダのホストファミリーに出会うまでのことについて書きたいと思います。

アメリカ語学研修旅行から帰ってきて、冬休みが始まるまでは「外国のホストファミリーはみんなフレンドリーだし、なにも心配する必要は無いな!」と考え、短期留学が近づいているということなど頭の中にはありませんでした。

クリスマスが終わり、新年が近づいてきた冬休みのある日、僕はふと留学があるということを思い出しました。(それまでは本当に存在を忘れていた...)その瞬間から僕の頭の中は留学に関する心配でいっぱいになりました。例えば、ホストファミリーや現地の学校に関する事、西大和の授業や部活の遅れなど、たくさんの心配事があり、とても新年を祝うことも、冬休みの宿題をやる気もおこりませんでした。(未だに課題出してないし(笑))

そんな気持ちで迎えた出発当日。中3の20人で伊丹空港に集まりました。普段は友達と海外に行けるとなると、楽しみで仕方がないはずですが、僕たちは「行きたくないわー」、「後期期末受けてもいいから帰りたい」とか言っていました。

もちろんバンクーバーへの便では一睡もできず(隣が太っているカナダ人のおじさんだったということが最大の理由だと思うが...)、カナダに着いてしまいました。

ホストファミリーの家に向かうバスでは緊張して景色も全く見ていませんでした。

そして出会ったホストファミリー。語学研修旅行のときの家族とは全く異なっていました。

どんな家族だったのかは、「VOL.2~文化の違い~」で書きたいと思います。

今回はプロ野球の審判について書きたいと思います。

ついに二〇二六年のプロ野球が始まりました。選手やファンだけでなく、審判にとっても新たなシーズンです。毎日、全試合で四人(それ以上の時もある)の審判が必ずいますよね?野球の審判はとてもハードな仕事で、試合の三時間前には球場へ入り、試合中約三時間は集中したまま立ち続け、試合後も反省会などをしてから帰るため球場を出るのが午後十一時ぐらいになるとか…。ちなみに選手に一軍、二軍があるのと同様に、審判も一軍、二軍に分かれています。

テレビに映っているホームベイス後の審判(球審)のなかには「ストライク」、「三振」などのジェスチャーをわかりやすくするため、自分なりにジェスチャーを考えて示している人もいます。その中でも有名なのが数田直人審判員。彼はバッターが三振したときに、「三振」と呼ばれるポーズをします。これはプロ野

球ゲームなどでも実装されて話題になりました。白井一行審判員はストライクが入った時に「アアアアアアアアアア」と甲高い声で独特なコールをします。これは難病だった娘に「もっとお父さんの声を聞きたい」と言われたことがきっかけでテレビを通して聞かせるように始めたそうです。いいお父さんですね。ちなみに彼はAKB48の大ファンです。野球の審判員の中にはプロ野球選手を引退して審判になった人もいます。

先生インタビュー!

中等部高一学年部 塩見裕亮先生

このコーナーでは毎月、西大和学園内の様々な先生にインタビューすることを通して、普段の授業だけではわからないような先生の素顔を書いていきたいと思います。今年度一発目は塩見先生にお話ししました。



塩見先生近影

Q1 仲のいいよく話す先生は?

— 早川先生や譜久村先生など、中二学年部の先生方。(昨年度に同じ学年部であったため)

Q2 趣味について教えてください
— スキューバダイビング。(海にいた時間は時間を忘れ、非日常の世界に入ることができると)

Q3 自慢できることは?

— 黒板に書く字がきれい。かると。競技かるた部の顧問です)人の名前をすぐに覚えられます。

Q4 自分の生きがいは何?

— 自分が担任をしているクラスが一年後このように成長

連載小説

任務部!

第1話 時津 奏太

— 少年は、本を手にとった。目次を飛ばして、最初の1ページを読んだ。そして閉じ、書架に戻した。その隣の本を手にとり、最初のページを開いた。少年は次のページをめくった。そこから3ページほどめくり、本を閉じ、レジに行った。

少年は、ブックカバーを身にまとった本とともに大森ブックストアを出た...

堂橋中学校2階北館248教室。窓際の席で日の光の下、本を読んでいる彼の名は新庄真。読書が好きで、他称『堂橋のホームズ』自称『相談屋』である。まだ入りたい部活も見つからず、放課後の時間をどう使ったらいいかわからない時分だった。そこへ、

「まこと———」

絵にかいたような明るいキャラの少年が近づいてきた。

「健太、また来たか。あと名前のばすな」

彼の名は平西健太。盛り上げ役である。因みに、小学生時代の図画工作の成績はとにかくよかった。この二人は、幼稚園からの親友である。

「俺等も中学生だな」

「うん、でも部活に入っていないからまだ小学7年生って感じかな」

そう真が放った言葉が、物語のカギを開けた!

「だったら、『任務部』に入らない?」

They open the story's door.....

部員の私的なコラム

僕は中学三年間、中学軟式野球部に所属しており、野球のことが大好きです。ということで

塩見先生、ありがとうございます。